

ユネスコスクール中学生派遣事業に参加して

～東日本大震災を乗り越えた気仙沼市の中学生から学んだ「中学生にできること」～

2014年8月19日～21日に、ユネスコスクール中学生交流派遣事業の一貫として、2年の直江と丸本で宮城県気仙沼市を訪問しました。被災地を視察し、20日に気仙沼市中学生代表者会議に参加し、21日に気仙沼市立気仙沼中学校を訪問した様子を紹介します。

◆宮城県気仙沼市の位置



気仙沼市は宮城県の北東の太平洋沿岸部に位置する、水産業で有名な都市です。

◆東日本大震災の被害

気仙沼市では地震の後、地域によっては20mを超える津波が沿岸部を襲いました。その後の火災発生のため沿岸部は壊滅的な被害になり、多くの方が犠牲になりました。



コンテナが流される漁港



市街地を飲み込む津波



重油やガソリンに引火し火の海に



330トンの第18共徳丸は港から750m離れた陸地に流されました



◆2014年8月の気仙沼市

私たちが見てきた、東日本大震災から3年半がたった気仙沼市の様子です。



浸水した6.3mの高さを示す建物の青線



未だに更地の多い、市中心部



共徳丸のあった場所は鎮魂碑が建てられ見学台になっていました。



共徳丸のあった場所は鎮魂碑が建てられ見学台になっていました。



運動場は全て仮設住宅になった気仙沼中学校



運動場に今も立ち並ぶ仮設住宅



漁が再開された気仙沼港



漁が再開された気仙沼港

◆気仙沼市の中学生との交流から気付いたこと

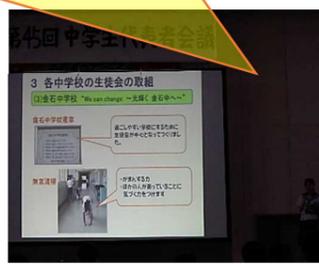
金石中の委員会・部活動ごとや小学校での挨拶運動を「自分の学校でもしてみたい!」と言われました



気仙沼市各校の生徒会が会議に参加



金沢市の紹介



金石中の活動紹介



気仙沼中生徒会との交流



分科会で意見交換



現地の中学生は、震災のつらい経験を友達や地域の方、支援してくれる方とのつながりで乗り越えることができたと言ってくれました。また、中学生の力で気仙沼市を良くしようというパワーや、他校からアイデアを取り入れる前向きさ、仲間や地域の方とのつながりを大切にする様子を感じ、多くのことを学びました。

まず、友達や仲間を大切に、学校を良くする活動をすることで、一人一人の小さな力が大きな力になると感じました。中学校が良い活動をする、地域を明るくでき、いざという時にスムーズに協力ができると思いました。

私たちが住む金沢や金石をより良い地域にするため、金石中学校がいよいよ活動する明るく安心な学校でなければなりません。そのために自分の意見に自信をもち、アイデアを出し、生徒会活動を充実させることが大切だと感じます。誰かがしてくれると思わずに、一人一人が光輝き、学校や地域を活性化できるよう、生徒で創る生徒会活動を充実させていきましょう。それが震災を乗り越えた気仙沼市の中学生から学んできたことです。